

全国の自治体における流域活性化に関する研究

Research on River Basin Vitalization by Autonomous Bodies around the Nation

まちづくり・防災グループ 研究員 佐治 史
代表理事 金尾 健司
まちづくり・防災グループ 次 長 竹内 秀二

1. はじめに－研究の目的

本研究は、全国各地の自治体が主体となって実施している流域活性化に関する取組みを対象に、活動の経緯、目的、内容、発展性を調査・分析し、他の自治体の参考となる仕組みを検討することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、代表的な事例として「全国川サミット」（平成4年～現在、以下「川サミット」という）を取り上げ、過去の開催報告資料、平成29年度開催の「第26回全国川サミット in 四万十」（主催：高知県四万十市）の実行委員会並びに川サミットへの出席、参加自治体への事後アンケート、次期開催地の広島県三次市への引継ぎから得た情報やデータを基に、活動の継続や流域活性化の促進につながる運営体制や資金調達、意見交換の仕組み等を検討した。

3. 全国川サミットとは

全国川サミットは、一級河川と同じ名称の自治体同士の交流を通して、川の環境、流域の生活や歴史への理解を深め、その普及啓発を目的に平成4年度から毎年持ち回りで開催されてきた。平成18年度からは一級河川の流域内の自治体も参加するようになった。毎回、地域独自の工夫を凝らしたテーマ設定のもとで、現地視察会、首長による意見交換、生徒たちの環境学習の成果発表、行政職員や有識者の基調講演など、充実したプログラム内容となっている。



写真1 現地視察会（高瀬の沈下橋）



写真2 全国川サミットでの児童絵日記の表彰式

表1 全国川サミットの開催状況

回数	年度	開催自治体	河川	参加市区町村数	テーマ
第1回	H4	富山県庄川町	庄川	15自治体	川は未来に夢はこぼ
第2回	H5	北海道鶴川町	鶴川	16自治体	きらめきリバータウン ～川と人の未来を求めて～
第3回	H6	静岡県大井町	大井川	21自治体	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～
第4回	H7	兵庫県加古川市	加古川	22自治体	川は友だち ～ひと・まち・川 ちよつと素敵な物語～
第5回	H8	徳島県那賀川町	那賀川	20自治体	未来へ語り！ 私たち川家族
第6回	H9	秋田県雄物川町	雄物川	21自治体	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第7回	H10	宮城県北川町	北川	21自治体	思い出いっぱい 不思議がいっぱい ～川を彩るホテルの光が子供たちへの贈り物～
第8回	H11	愛媛県砥川町	砥川	17自治体	21世紀へのメッセージ ～それは川から始まる～
第9回	H12	三重県宮川村	宮川	17自治体	川に愛される人になりたい ～ちよつとすてきな川家族～
第10回	H13	兵庫県播磨川町	播磨川	17自治体	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう 川の未来 水の未来～
第11回	H14	東京都江戸川区	江戸川	14自治体	暮らしとけむる、にぎわいの川 ～都市の中の川を考える～
第12回	H15	岡山県加茂川町	加茂川	11自治体	森と川が伝える ふるさとのメッセージ ～水は生命の源～
第13回	H16	奈良県十津川村	十津川	9自治体	みんなで考えよう！ 河川環境
第14回	H17	兵庫県猪名川町	猪名川	10自治体	清流とともに暮らし ～ええやん猪名川50年～
第15回	H18	岐阜県揖斐川町	揖斐川	9自治体	川面に暮らし 川とともに生きる
第16回	H19	東京都江戸川区	荒川	17自治体	川の恵みとその脅威
第17回	H20	群馬県みなかみ町	利根川	10自治体	川を活かしたまちづくり・川と交流
第18回	H21	秋田県横手市	横手川	14自治体	川はくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第19回	H22	兵庫県加古川市	加古川	15自治体	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第20回	H23	新潟県長岡市	信濃川	21自治体	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第21回	H24	茨城県取手市	利根川	25自治体	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第22回	H25	長野県川上村	千曲川	23自治体	流域文化に学ぶ
第23回	H26	千葉県香取市	利根川	17自治体	歴史から学ぶ川と私たちの暮らし
第24回	H27	新潟県新潟市	信濃川・阿賀野川	24自治体	川が創った大地 ～水と土が紡ぐ歴史～
第25回	H28	福島県喜多方市	阿賀川	27自治体	上流は下流を思い、下流は上流を敬う ～私たちの生活を支える大切な川～
第26回	H29	高知県四万十市	四万十川	23自治体	川とともに生きるまち
第27回	H30	広島県三次市	江の川	-	-

4. 検討の内容・結果

4-1 活動の継続に資する仕組み

(1) 運営体制

川サミットは、毎年持ち回りで開催され、主催は

「全国川サミット連絡協議会」（以下「協議会」という）とその年の開催自治体である。

参加自治体の減少を受け、平成 18 年度からは、一級河川流域の市区町村や協議会の目的に賛同する市区町村へも会員資格を拡げる等、柔軟に対応してきたことがわかった。

協議会に継続会員はおらず、開催ごとに参加する市区町村が会員となる。こうしたゆるやかな組織化のなかで、毎年参加する常連の自治体も現れており、最も長い江戸川区は、平成 12 年（第 9 回）から約 20 年にわたり参加を続けている。また、開催自治体では実行委員会や作業部会が結成され、活発な意見交換を重ねて企画・調整・運営が図られてきた。

平成 29 年度から常設事務局が設置され、運営ノウハウの蓄積や伝達等の面で開催自治体をサポートしている。（公財）リバーフロント研究所がその任を担っている。

（2）資金調達

開催自治体は、公的・民間団体の活動助成金、参加自治体からの負担金等をうまく組み合わせて自主的に資金調達を行う等、開催自治体の経費負担を抑える事業展開の工夫を図っていた。

（3）次期開催地の選定

次期開催地は、開催自治体が 2 年後の開催地を指名することが慣例となっている。2 年間で準備期間とし、テーマ設定や各種調整、予算確保等に比較的余裕をもって対応できることがわかった。四万十市の指名を受け、平成 31 年度の開催地に宮崎市が選定された。

4-2 流域活性化を促進する仕組み

（1）流域活性化に関する意見交換や取組み紹介

川サミットは開催自治体の流域内の自治体も参加する。毎回「首長サミット」の時間が設けられ、平成 29 年度は川を活かした地域振興等をテーマに、取組み紹介や意見交換が実施された。そこでは、上下流交流の取組みや森林管理を含めた四万十川の保全活動などの事例も紹介され、流域活性化のヒントが随所に盛り込まれている。

首長を対象としたアンケートによれば「各自治体の PR ポイントや課題が理解できた」「地域の実情に関する意見交換ができたので有意義であった」等、効果が得られていることがわかった。

また、川サミット会場には参加自治体すべての紹介パネルや観光パンフレット等が展示・配布されるコーナーや特産品の販売ブースが設けられており、

会場を訪れた一般の人々へも流域や全国の自治体の取組みを知っていただく機会を提供している。

（2）川サミットを契機とした自治体間の連携強化

自治体の交流は、川サミットの開催時だけに留まらない。川サミットへの参加をきっかけに、姉妹都市提携が締結されたり（砺波市・むかわ町）、友好都市協定及び災害時相互援助協定を締結した自治体間（香取市・喜多方市）で開催引継ぎが行われる等、川サミットが災害時も含めた自治体間の連携強化の一助となっていることが確認された。

5. おわりに

流域活性化は、短期間では成果が表れにくい息の長い営みである。本研究の結果から、川の環境や生活、歴史の普及啓発活動を持続的に行うためには、人材や資金面の安定的な確保を図ることの必要性が示唆される。川サミットは、開催を持ち回りとして資金や人的負担の分散化をはかること、既存のつながりや信頼関係を活かして次期開催地の選定を行うこと、外部の資金を複数組み合わせることで開催費用とすること等が「安定」につながっていた。人的ネットワークの活用とゆるやかな運営体制、そして各回の開催自治体によるきめ細やかな企画・調整・運営が、会の継続を支えてきたといえる。



写真-3 首長サミット



写真-4 四万十市から三次市へサミット旗の引継ぎ

全国川サミットに関するお問い合わせ先：

saji-f@rfc.or.jp（担当：佐治）